

小さな国際交流都市を目指して!

はじめに

仙北市は田沢湖町、角館町、西木村が合併して平成17年に誕生しました。

年が明けたこの時期の本市は一面雪景色。上松木内の紙風船上げ、カンデッコ上げ、火振りかまくらなど、地区ごとの小正月行事でにぎわいます。また国体を何度も開催した「たざわ湖スキー場」では、華やかに雪まつりも開催されます。

雪が解けると、市内は水芭蕉、福寿草、片栗、桜、雪椿など草木が一気に芽吹き、まさに北国の春を満喫できます。田沢湖地域は、水深日本一の田沢湖、高山植物の宝庫で知られる秋田駒ヶ岳、玉川、乳頭、水沢、田沢湖高原など、全国ブランドの温泉群に恵まれています。角館地域は藩政時代からの

町割りが残る武家屋敷群、その通りを中心に枝垂れ桜が咲き誇り、市内を流れる松木内川の堤には、2kmにわたるソメイヨシノの花のトンネルが続きます。また西木地域は緑豊かな農村部で、林業や稲作が中心です。特産の西明寺栗栽培地には、春の一時、紅紫色の片栗が野辺を覆い、その規模は20haと全国随一。まさに花園です。

全域に地域運営体

行政と一緒にまちづくりを行う市民団体が「地域運営体」です。昭和大合併以前の地域(小学校区)を単位とし、全市内9地域で組織され、その地域の市民・団体・集落会・町内会が参加し、地域再生や自主防災など、自らの発案で事業計画を練り上げ、総会に諮り決定します。事業財源は市が上限

500万円まで交付します。運営体を含め、すべての市民・団体と手を携えたまちづくりに進む思いで「市民と市の協働によるまちづくり基本条例」の制定を目指しています。また各団体の活動を支援する市民サポートセンターを、各地区に開設予定です。サポートセンターに配属する市職員を地域職員と位置付け、地域運営体と一緒に見守り・防災・ご用聞き活動などに当たります。

職員が地域に飛び出す、よろずサードビスの前線基地です。限界集落・地域存続政策と考え、危機的現状にある地域を守る取り組みを強化します。合併とは反対側にある取り組みとも思われるかも知れませんが、東日本大震災後に注目されている地域コミュニティの再生こそ、市が市として成立し、発展できるパワーになることを確信します。

所得向上に向けた総合産業研究所

本市は、全県一の観光地でありながら、所得水準は県内25市町村中の22位(平成18年統計)と低迷しています。そこで産業育成・雇用拡大で所得の向上を図ろうと、総合産業研究所を開設しました。主な活動分野は、食品産業群の育成や消費マーケットの開拓です。未利用となっている地域資源を掘り起こし、生産・加工・流通・販売の各ステージを徹底支援します。内包する組織に農山村体験デザイン室があります。ここでは教育旅行・社員旅行プログラム作成、またグリーンツーリズム活動などを一手に引き受けています。さらに厚生労働省の事業で設置した新ビジネス実践チーム。このチームでは農業ビジネスと他産業のマッチング、首都圏などでの物販活動やeビジネスの展開に取り組んでいます。

自治体外交で交流促進

市と県、それに地方鉄道の職員が混在している仙北市ツーリストインフォメーションセンター(略称TIC)は、市と県が機能合体した秋田発の仕組みで、県観光の玄関口として不可欠な組織です。例えばデパートの1階が楽しければ、お客さまはどんどん上階に上がっていきます。秋田デパート1階部分の役割をTICが担おうとしています。新たな滞在メニューを市の枠を超えて造成したり、それらを販売したりが日常の業務の柱です。

また合併前、各々で活動していた観光協会が、田沢湖・角館観光連盟を立ち上げました。平成23年10月には、都内2カ所「秋田美人100人キャンペーン」を実施。秋田美人

によるチラシ配布、宿泊クーポンや商品引換券による誘客宣伝を行いました。このイベントは、「震災後の日本に元気を取り戻す取り組み」と高い評価をいただき、参加者全員に溝畑宏観光庁



台北市庁舎において開催された北投温泉・玉川温泉姉妹温泉提携協定調印式

員に溝畑宏観光庁

長官より感謝状をいただきました。国内の交流では、姉妹都市に長崎県大村市、連携交流提携都市に秋田県秋田市、茨城県常陸太田市、災害時防災協定都市に山形県新庄市、茨城県高萩市、愛媛県東温市などと強い絆を結び合っています。東日本大震災直後には、日ごろから交流のある都市と連絡を取り合い、即座に支援を行うことができました。距離の離れた自治体との交流は、文化的な交流のほか、災害時の相互協力のためにも普段から密にする大切さを再確認させられたと思います。

平成23年はさらに交流都市が増えました。その前年、70年前に絶滅したとされていた田沢湖固有魚「クニマス」が、山梨県富士河口湖町の西湖で発見されました。このご縁で平成23年10月、西湖と田沢湖の姉妹湖提携を結び、クニマス保全活動や相互交流を推進します。いずれは酸性水に侵された田沢湖の再生を図り、クニマスの里帰りを果たしたいと思っています。

さらに、国内はもちろん、アジアの各地域を商圏ターゲットに取り組みむことも標ぼうしています。平成23年8月、台湾(台北市)の北投温泉と仙北市の玉川温泉が姉妹温泉

提携を結びました。本年は、台湾(高雄市)の澄清湖と田沢湖が姉妹湖提携してから25周年を迎えることもあり、台湾交流はさらに加速します。また韓国ドラマ(アイリス)のロケ地となったことで、韓国からのお客さまが震災前は急増した経緯があり、認知度が高まっている今、冬季オリンピックが決定している韓国に、強気にPRし、たざわ湖スキー場での強化合宿の売り込みを開始しようと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 1093.64km²
- ◆ 人口 2万9974人
- ◆ 世帯数 1万842世帯

〔将来都市像〕小さな国際交流都市仙北市

〔まちの特徴〕森と川と湖、さまざまな泉質の温泉群、そして歴史的な建造物など、自然、癒し、歴史文化に恵まれた美しいまち

〔市町村合併〕平成17年9月20日、田



仙北市長 門脇光浩



沢湖町、角館町、西木村が合併

〔特産品〕米、地ビール、漬物、西明寺栗、ほうれん草など

〔観光〕角館の武家屋敷、田沢湖、駒ヶ岳、玉川・乳頭・水沢・田沢湖高原温泉郷、秋田内陸縦貫鉄道

〔イベント〕田沢湖刺巻温泉ミズバシヨウまつり、八津・鎌足かたくり群生の郷、角館の桜まつり、たざわ湖まつり、戸沢氏祭、角館のお祭り、田沢湖マラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

緑と文化が薫る ふれあいのまちを目指して

はじめに

綾瀬市は、神奈川県ほぼ中央に位置し、横浜へは20km、東京へは40kmという首都圏域にありながら、自然にも恵まれ、大山・丹沢山塊を望み、市内に至る所から富士山を仰ぎ見ることが出来ます。

綾瀬は、明治22年に市制・町村制が施行され、8カ村が合併し「綾瀬村」が誕生しました。市内には、



市役所から眺める富士山

丘陵を縫うように3本の河川が流れ、「綾瀬」の由来は、定かではありませんが、瀬が綾をなすように流れていたことから取ったという説もあります。

昭和40年以降、高度成長期の人口増加は著しく、昭和35年に8300人程度であった人口は、20年後の昭和55年には、およそ6万5000人とおよそ8倍になりました。この間、自動車関連をはじめとした工業立地も進み、工場従業者の市内居住が進んできました。昭和53年11月1日市制を施行し、「綾瀬市」となり、平成元年4月「綾瀬」誕生100年を迎えました。

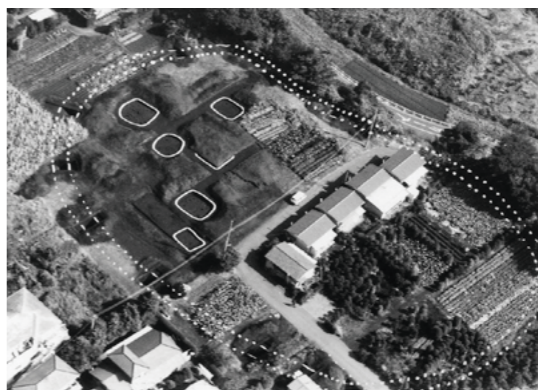
また、本市には、行政面積の18%弱を占める厚木基地があります。昭和20年に連合国軍最高司令官ダグラス・マッカーサー元帥がこの地に降り立ち、戦後の日本の

歴史はここから始まったと言っても過言ではありません。

市内初!の国指定史跡

市内には全国から注目される遺跡があります。弥生時代の環濠集落である吉岡の神崎遺跡です。日本の歴史上、特に重要な史跡として評価され、平成23年、国指定史跡となりました。出土した土器や住居跡に東海地方の影響が強く見られることから、現在の愛知県東部から静岡県西部にかけて暮らしていた人々が集団でこの地に移動してきたことが明らかになっており、湧水などが豊富で緑豊かな住みやすいところであったことを物語っております。

また、この遺跡は環濠集落全体が遺存しています。環濠集落は全国各地で見られています。



国指定史跡となった神崎遺跡全景

緑と環境を守りはぐくむ まちづくり

こうした昔からの豊かな自然、広がりのある緑に包まれた空間の中で、誰もが安全に安心してスポー

ツやレクリエーションを楽しみ憩うことのできる場として、多様なスポーツ施設を配置した、綾瀬スポーツ公園の整備を平成19年度から進めております。

既に人工芝のサッカー場などが完成し、休日には、市内外から多くの利用があり、大変喜ばれております。今年度中に、テニスコート6面、ソフトボール場、レストハウスも完成する予定で、この地が「綾瀬のスポーツの中心」になり、人々が集うにぎわいとふれあいの拠点が形成されることを期待しております。

本市には、長い間、都市の中心となる拠点がありませんでした。市域に鉄道駅が無く、近隣の駅に近い市域外縁部から市街化が進んだことが原因です。また市内には、前述した厚木基地や通過交通となつている東名高速道路、東海道新幹線があり、市域を分断する要素となつていきます。

そこで、市の中心部に人々が集い、ふれあいにぎわいに満ちた中心市街地を形成するため、タウンセンター計画を推進してきまし

た。市役所周辺地区に魅力ある商業施設や公共・公益施設を配置し、市の内外から人々が訪れる活力ある交流拠点とするとともに、「緑と文化が薫るふれあいのまち あやせ」を将来都市像に掲げ、自然を大切にしながら、利便性の高いまちづくりを進めています。

平成17年3月には大型商業施設が開業し、周辺にも商業集積が進んでいます。さらに、本市を中心とした県央・湘南地域の生活利便性の向上と地域経済の活性化策として、東名高速道路に接続する「(仮称)綾瀬スマートインターチェンジ」(以下「IC」)設置に向けた検討を進めています。本ICは、県央・湘南地域の新たな玄関口となるものですが、本市では、主要幹線道路の整備と併せて、広域交通アクセス利便性を生かした新たな産業拠点として、農業公園や農畜産物直売所の設置など、魅力とにぎわいに満ちた新たな交流拠点を形成するとともに、農工商の各産業の特徴を生かす取り組みを進めていきます。

また、タウンセンターの機能強化などによる産業全体を活性化させる施策を展開しながら、工業・農業の高度化、農産物・畜産物のプ

プロフィール

- ◆ 面積 22・28km²
- ◆ 人口 8万2013人
- ◆ 世帯数 3万3861世帯

〔将来都市像〕緑と文化が薫るふれあいのまち あやせ

〔まちの特徴〕西に大山・丹沢山塊を望み、遠く富士の秀峰を仰ぐ相模野台地に位置し、中小河川が丘陵を縫うように流れ、緑豊かな自然環境に包まれたまち

〔特産品〕高座豚手づくりハム・ソー



綾瀬市長 笠間城治郎



セージ、豚みそ漬、ブロッコリー、高座スイカ
〔観光〕城山公園(早川城跡)、神崎遺跡(国指定史跡)、サイクリングロード
〔イベント〕城山桜まつり、ふれあいナイトウォークラリー大会、綾瀬いきいき祭り、あやせ文化芸術祭、綾瀬市駅伝競走大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「行ってみたい、住んでみたい、住んでよかった」 人々を引きつける魅力あるまちに

はじめに

京都府北部に位置する福知山市は、京阪神からほぼ60〜70kmの距離にあり、「子イノシシ」「ウリ坊」の背に子ザルの「みわちゃん」が乗ることで全国的に有名になった福知山市動物園やプラネタリウム、植物園などの人気スポットが集まる三段池公園、戦国武将・明智光秀ゆかりの福知山城など、歴史と自然あふれるまちです。



“ウリ坊とみわちゃん”の2匹は今でも福知山市動物園で見ることができる

また、郊外にも魅力ある施設が盛りだくさん。三和地域では、地

元の農作物を生かした料理と菓草風呂などが楽しめる三和荘や、日本で現存する数少ない産屋が見られる大原神社。銀河鉄道999ゆかりの夜久野高原では、温泉、地場野菜の直売所、和菓子作りなどが人気の「農匠の郷やくの」、鬼伝説が今も残る大江山連峰では、日本の鬼の交流博物館、ウルトラマンの製作者 成田亨氏監修の鬼のモニュメントがある酒呑童子の里など、珍しいスポットがたくさんあります。

毎年8月の「くの一」武道大会 丹波福知山の段」や「福知山ドッコイセまつり」「ドッコイセ福知山花火大会」は、近畿・全国から城下町福知山に多くの人が訪れる人気のイベントです。さらに1万人のランナーが全国から集結する秋の「福知山マラソン」では、地元の食材・ス

イーツを紹介するブースも大好評を博しています。ぜひ、多くの皆さまにお越しただけるよう心よりお待ちしております。

明智光秀ゆかりの福知山城 福知山踊り「ドッコイセ」

明智光秀が丹波平定の際に築城した福知山城。当時のまま残る石垣には、寺院や墓所などから運んだ宝篋印塔や五輪塔などの転用石が多く使用され、今も見ることができます。これらは、戦国時代を題材にしたドラマのロケや、珍百景を認定する番組で取り上げられるなど、テレビなどでも数多く放映されており、福知山市の全国発信の拠点として活用しています。

また、毎年8月に、福知山城の城下町で「ドッコイセ」の掛け声とともににぎやかに連なる「福知山

踊り」は、明智光秀ゆかりの踊りとして伝えられ、今から400年以上前の戦国時代に、織田信長の命令を受けて丹波を平定した武将・明智光秀が福知山城を築城する際、城建設にあたった人たちが石材や木材を運びながら「ドッコイシヨ・ドッコイシヨ」と手ぶり、足ぶり面白く歌い出したのが始まりといわれています。

一般的に明智光秀は、本能寺の変で主君織田信長を討った反逆者というイメージがありますが、福知山にとっては、城を築き、由良川に堤防をつくり、また税金を免除してまちづくりの基礎をつくった恩人であり、福知山音頭の歌詞にも光秀をたたえるものがあります。市内で毎年開催される「御霊大祭」も、江戸時代に光秀の霊を慰めるために始まったといわれています。

鬼伝説が残る 酒呑童子の里！

「昔 丹波の大江山 鬼ども多くこもりいて」と唱歌にも歌われた大

江山の鬼伝説。大江山に伝わる3つの鬼伝説の中でも平安時代の中ごろ、京の都で暴れていた大江山に住む酒呑童子が、源頼光をはじめとした4人の従者たちによって退治されたという「酒呑童子」伝説が最も有名で、本市の大江地域では、鬼によるまちおこしを合併前から進めてきました。

伝説に由来する地域では、今でも「鬼の足跡」「頼光の腰掛け岩」「鬼飛岩」などの遺跡散策ができ、併せて遊歩道や吊り橋、鬼に特化した博物館・宿泊施設などを備えた「酒呑童子の里」を整備したほか、各所に鬼をモチーフにしたオブジェや全国の鬼師による鬼瓦作品を設置するなど、散策が楽しめるよう努めています。

また、平成23年、京都府内で開催した国民文化祭を契機に、北は



福知山城と福知山踊り

福知山の出身者には、名誉市民でノーベル化学賞受賞者の下村脩氏や、日本画家で文化勲章受章者の故佐藤太清氏をはじめ、全国や世界で活躍されている人が多くおられます。その中で、現在メディアなどを通じて、福知山の情報を全国に発信していただける人を、「ふるさと応援団」ドッコイセ大

ふるさと心強い応援団 「福知山ドッコイセ大使」

このほかにも、同地域では京都府内で初の「どぶろく(濁酒)特区」に認定され、地元の製造免許取得者による「鬼」や「大江山」にちなんだどぶろくが続々登場・販売され、盛り上がりを見せています。本市では、これら大江山の鬼を福知山全体の宝として、これからも次代へと引き継いでいくことが大切であると考えています。

北海道登別市から、南は鹿児島県曾於市までの全国14の「鬼伝説のまち」が本市に集い、「全国鬼サミット」を7年ぶりに開催しました。サミットでは、各市町の代表者がそれぞれの鬼のまちづくりを報告し、共に未来について語り合い、鬼サミット宣言としてまとめました。

「に任命しており、小橋建太氏(プロレスラー)をはじめ、水野直己氏(パティシエ、フランス・パリ開催の世界大会「ワールドチョココレトマスターズ2007」総合優勝)、千原兄弟(お笑いコンビ)の千原せいじ氏、千原ジュニア氏に福知山のPRをはじめ、地元の講演会やイベントなどにご参加いただくなど、福知山の活性化と情報発信に協力いただいています。

プロフィール

- ◆ 面積 552・57km²
- ◆ 人口 8万1742人
- ◆ 世帯数 3万5053世帯

〔将来都市像〕北近畿をリードする創造性あふれるまち

〔まちの特徴〕城下町、明治以降は商都として発展。丹後天橋立大江山国定公園や、由良川など風光明媚な自然に包まれたまち

〔市町村合併〕平成18年1月1日、三和町、夜久野町、大江町を編入合併



福知山市長 松山正治



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「『海生交流都市』えたじま」の 新たなトライ

はじめに

江田島市は、広島県の南西部に位置し、面積は約100km²、人口は約2万8000人。平成16年11月1日に、江田島町、能美町、沖美町および大柿町の4つの町が合併してから、本年度8年目を迎えます。



シラス漁体験をする中学生

本市は、広島湾に浮かぶ江田島、能美島とその周辺に点在する島々で構成されており、海上距離で広島市から7.5km、呉市からは6kmの位置にあります。

このため、本市から広島市や呉市への通勤・通学者の多くは航路を利用してきます。特に広島港に向けては大きく3つの航路があり、そのうちの1つを市の企業局が運営しているのも特徴の一つです。

産業では、瀬戸内海の自然を生かした漁業や農業が盛んで、穏やかな海で特産物のカキが養殖されるほか、日当たりのよい斜面を利用して柑橘類、花、野菜が栽培されています。特にカキについては、むき身の生産量は国内トップクラスで、近年では夏カキを生産して、「ひとつぶくん」としてブランド化に取り組んでいます。

また、多くの見学者が訪れる海上自衛隊(旧海軍兵学校)や、江田島青少年交流の家をはじめ、海水浴やキャンプなども楽しめる島として知られており、合併後、自然との共生・都市との交流による「海生交流都市」えたじまを将来像としてまちづくりを進めてきております。

しかしながら、人口減少が顕著であり、少子高齢化や生活航路維持の問題、厳しい財政状況など多くの課題を抱えており、現行、長期的な展望に立ったさらなる活性化策が求められているところです。

マイナスをプラスに 活性化を考える

①オリーブのまちに

本市の特産品の柑橘類も、生産者の高齢化により、従事者が年々

問い合わせも多くいただいて、平成24年度の10月には奈良県の高校の修学旅行の誘致が決定しています。

東日本大震災復興支援に フェリー貸与

そこで、民泊(農家・漁家による体験型のホームステイ)により江田島の豊かな自然を満喫してもらおうと考え、民泊型の修学旅行の誘致活動に積極的に取り組んでいます。現在は市民の皆さんに声を掛けて、受け入れ態勢を整備しているところ。広島市の原爆ドーム、廿日市市の宮島、四国の松山市もすぐ近くにあるという利点もあり、



震災復興支援に貢献するフェリー「ドリームのうみ」

3・11の大震災で、被災された気仙沼市の大島と本土を結ぶフェリー航路を再開するため、本市の所有するフェリー「ドリームのうみ」を無償で貸出ししております。このときの経緯を簡単に申し上げますと、本市の所有するフェリーは、合理化により高速船に特化することに伴い、売船を予定していました。震災後、被災地の状況を目の当たりにして、できる限りの支援をしたいと思っただころ、仲介者からフェリーを提供してほしいとお話をいただき、全面的に協力することとなったところ。現在この航路は、災害復旧のための資材運搬や、がれきの搬出などの大型車両の運搬に利用されており、乗船人員も半年間で約20万人の方がこのフェリーを利用したという実績が出ています。

市民もこの「ドリームのうみ」が被災地の災害復旧・復興のために

役立っていることに大変喜んでおり、市としても引き続き被災地の復旧・復興に協力していきたいと考えています。

おわりに

今後、地域主権改革が進む中、個性と魅力あるまちづくりが求められる。地域間の競争も激しくなってきました。また、震災発生後、地域で助け合う共助の意識が一層高

減ってきており、担い手不足が深刻となっています。そのため、遊休農地や荒廃農地がさらに増えることとなり、有害鳥獣被害も多くなるといった悪循環となっております。

農業振興には大規模な農地で効率よく従事できる基盤が重要ですが、本市には大規模な農地が少なく、水の確保が難しいといった島しょ部特有の地理的な難点を抱えています。

そこで、新たな農業品目として、栽培が比較的容易で取り組みやすく、水の確保もほかの品目よりは少なく済む「オリーブ」に注目し、小豆島の例を参考にしながら、企業参入や市民の手による栽培など、耕作放棄地解消対策として、全的に「オリーブ」振興に力を入れていくこととしています。

②市民とともに修学旅行誘致を

観光に目を向けますと、海上自衛隊(旧海軍兵学校)への見学者は多いものの、市内のほかの地域へ

まっけてきております。そのような中で、市民と協働で「元氣にあふれ」「住んでみたい・住んでよかった」「訪れたい・訪れてよかった」と感じられるまちづくりを進めていくことが重要だと思っています。

そのためには、これからも引き続き「海生交流都市」えたじまに向けて全力で取り組むとともに、新しいことにもどんどんトライしてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 100・97km²
- ◆ 人口 2万7233人
- ◆ 世帯数 1万3369世帯

〔将来都市像〕自然との共生・都市との交流による「海生交流都市」

〔特産品〕カキ、みかん、花(菊・カーネーション・スイトピー)、オリーブ

〔まちの特徴〕瀬戸内海に浮かぶ10の島々からなる江田島市。温暖な気候と美しい自然に恵まれている

〔イベント〕ヒロシマMIKANマラソン、江田島市かきカキマラソン、フェスティバル江田島、サマーフェスタ江田島、のうみグリーンウォーキング

〔市町村合併〕平成16年11月1日、江田島町・能美町・沖美町・大柿町の4町が合併



江田島市長 田中達美



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。